



intra-mart Accel Platform / Accelシリーズ

2025 Autumn アップデート情報

© 2025 NTT DATA INTRAMART Corporation



改訂履歴

更新日	版番号	改訂内容
2025/10/1	初版	初版発行
2025/10/3	第二版	3. 生成AI対応 • 「IM-Copilot 利用ガイド - サポートモデル一覧」のリンクを修正 5. BPM機能 • 「iGrafx Process360 Live for IM-BPM 連携ガイド」のリンクを修正 • iGrafxに関する説明を一部修正
2025/10/14	第三版	3. 生成AI対応 • 基盤モデル、生成AIサービスに関する参考ページを追加 5. BPM機能 • 「iGrafxとIM-BPMの活用による一貫したプロセス管理の実現」のページを削除 • 「iGrafxとintra-mart連携によるDTOの実現」のページを追加 • 「システム連携フロー（iGrafx × intra-mart）」のページを追加 • 「2. IM-BPMのプロセス実行ログをiGrafxへ連携」のページに補足情報を追加 7. FAQ/Appendix • 「7. Appendix」を「7. FAQ/Appendix」に変更し、FAQページを追加

目次



- 本資料は開発中の画面が含まれている場合があります。
- 最新の情報は[リリースノート](#)をご確認ください。

はじめに

1. 製品開発・アップデート方針

2. 2025 Autumnアップデート概要

3. 生成AI対応

4. ローコード開発/DevOps機能

5. BPM機能

6. その他のアップデート

7. FAQ / Appendix

※目次タイトルをクリックすることでページに移動できます

はじめに

本資料の目的・背景

本資料は、当社製品「intra-mart Accel Platform」及び、業務アプリケーションシリーズ「Accel Applications」の最新バージョンにおける新機能や改善点をご紹介することを目的としております。あわせて、導入効果や今後の開発方針についてもご説明し、新規導入や旧バージョンからのアップデートを検討される際の参考資料としてご活用いただける内容となっております。

対象読者

旧バージョンをご利用中の方

最新機能や改善点を確認し、アップデートの検討にお役立ていただけます。

新規導入を検討中の企業様

製品の特長や導入効果を理解し、比較検討の参考にさせていただきます。

アセスメントサービスのご案内

- ▶ intra-martのアップデート/バージョンアップをご検討中のお客様に対して、ご利用中の環境を調査するサービスをご提供しております。

アップデート・バージョンアップに関する課題

-  最新バージョンへの移行に不安がある
-  現行システムへの影響範囲が不明確
-  移行作業に必要な期間やコストを把握したい
-  移行後のパフォーマンスが心配

弊社へご相談ください！

アセスメントサービスご提供内容

状況ヒアリング・お見積もり

現行システムの構成や課題をヒアリングし、アセスメント内容と費用をお見積もり致します。

アセスメント実施

現行システムの状態を調査します。
問題点を洗い出し、概算見積を作成致します。

レポートのご提出

アセスメント結果報告書、システム構成レポート、ユーザアプリ規模レポートなどのレポートを提出いたします。

アセスメント実施後の移行作業もご支援します。

01

製品開発・アップデート方針

intra-mart Accel Platformが目指すもの

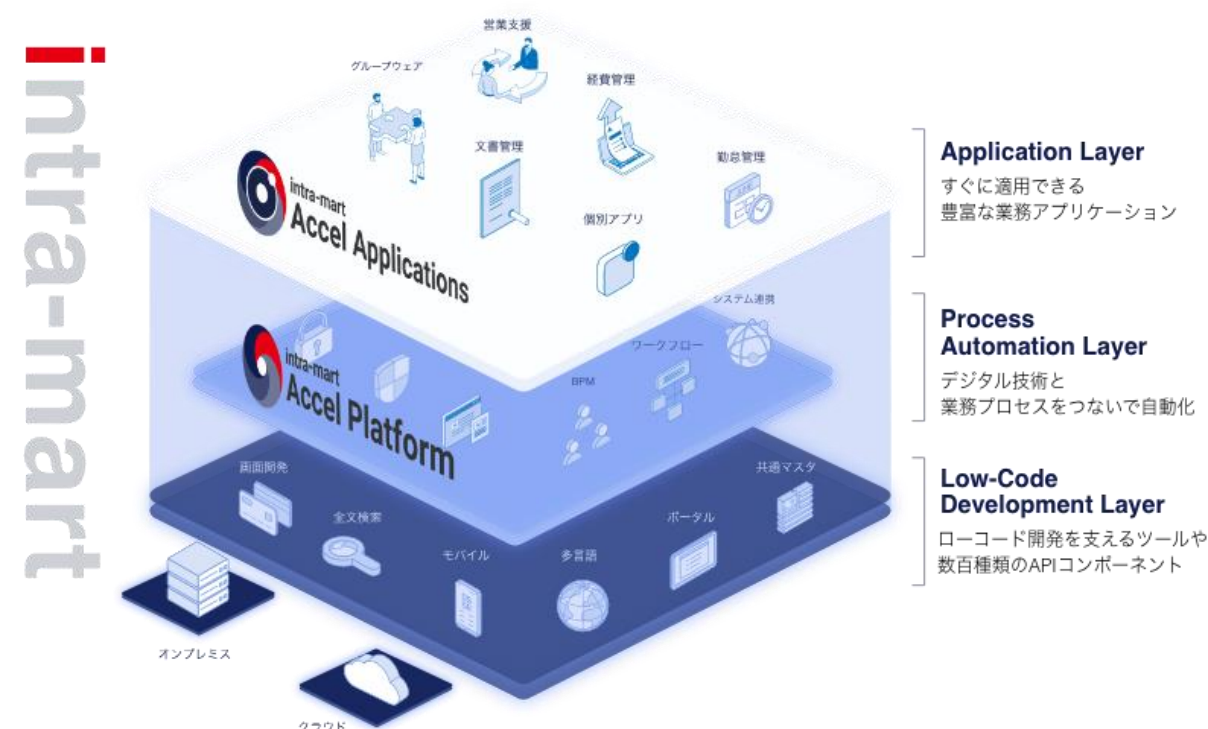


デジタル業務改革、もっと手軽に エンタープライズ・ローコードプラットフォームで実 現

Making digital business transformation easier by Enterprise Low-Code Platform

intra-mart Accel Platformは、
企業の**デジタル業務改革**を実現するための
機能強化を実施しています。

業務の効率化をスピーディーに実現可能な
エンタープライズ・ローコードプラットフォームと
して、
全体最適化されたシステムの開発・運用が可能な
プラットフォームを目指しています。



開発・アップデート方針



1. 先進技術をローコードで活用

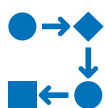
生成AIなどの先進技術を駆使したアプリケーション開発を、スピーディーかつ手軽に実現するためのローコード機能の強化を実施しています。



2. 小さなスタートから持続的な成長へ

部門単位の小規模のシステム開発から全社規模の開発までをサポートした、DevOps機能の強化を実施しています。

開発体験の統一と開発生産性の向上を目指します。



3. 正確な業務把握から全体最適へ

業務プロセス改革を実現するためのプロセス可視化から改善・実装に至るまでの、上流工程の要件定義を支援するBPM/ワークフロー機能を強化し、業務の全体最適化と自動化を実現するための開発を実施しています。



4. システムを繋いで業務を効率化

既存システムや他製品・サービスとの柔軟な連携が可能となるための機能強化を実施しています。

例えば、既存の基幹システムはそのままの運用で、intra-martは基幹システムを拡張したシステムとして運用する、などの柔軟なシステム開発の実現を目指します。



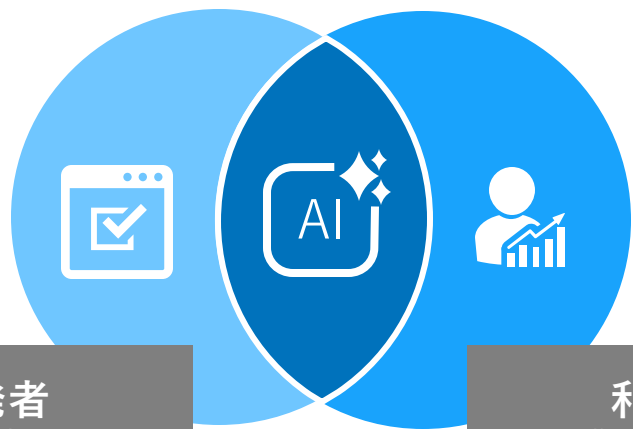
エンタープライズ・ローコードプラットフォームの実現へ

2025 Autumnの機能強化テーマ・ポイント

ビジネス変革に貢献するためのローコード開発プラットフォームの強化

1. ビジネス成長を支援する生成AIの活用

生成AIを活用することによる、
利用者の業務効率化と開発者の開發生産性拡大

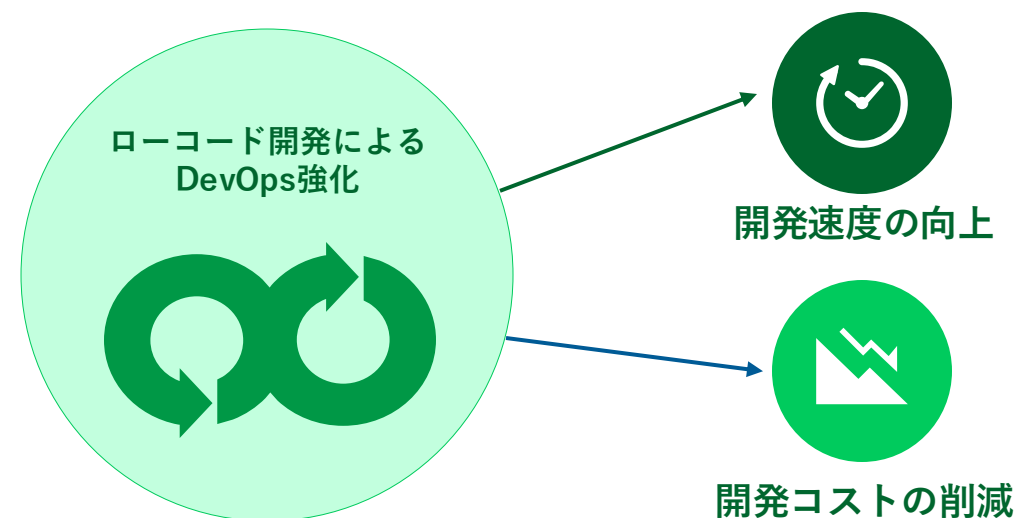


開発者
開發生産性の向上

利用者
業務効率化

2. 開発速度の向上、コスト削減のためのDevOps強化

ローコードを活用した
DevOpsのユーザーストーリー強化



ローコード開発による
DevOps強化

開発速度の向上

開発コストの削減

02

2025 Autumn アップデート概要

2025 Autumnアップデート概要

1

生成AI対応強化

- テストシナリオ生成機能を追加 (Accel Studio)
- 最新基盤モデルへの対応 (IM-Copilot)

2

ローコード開発/DevOps機能の強化

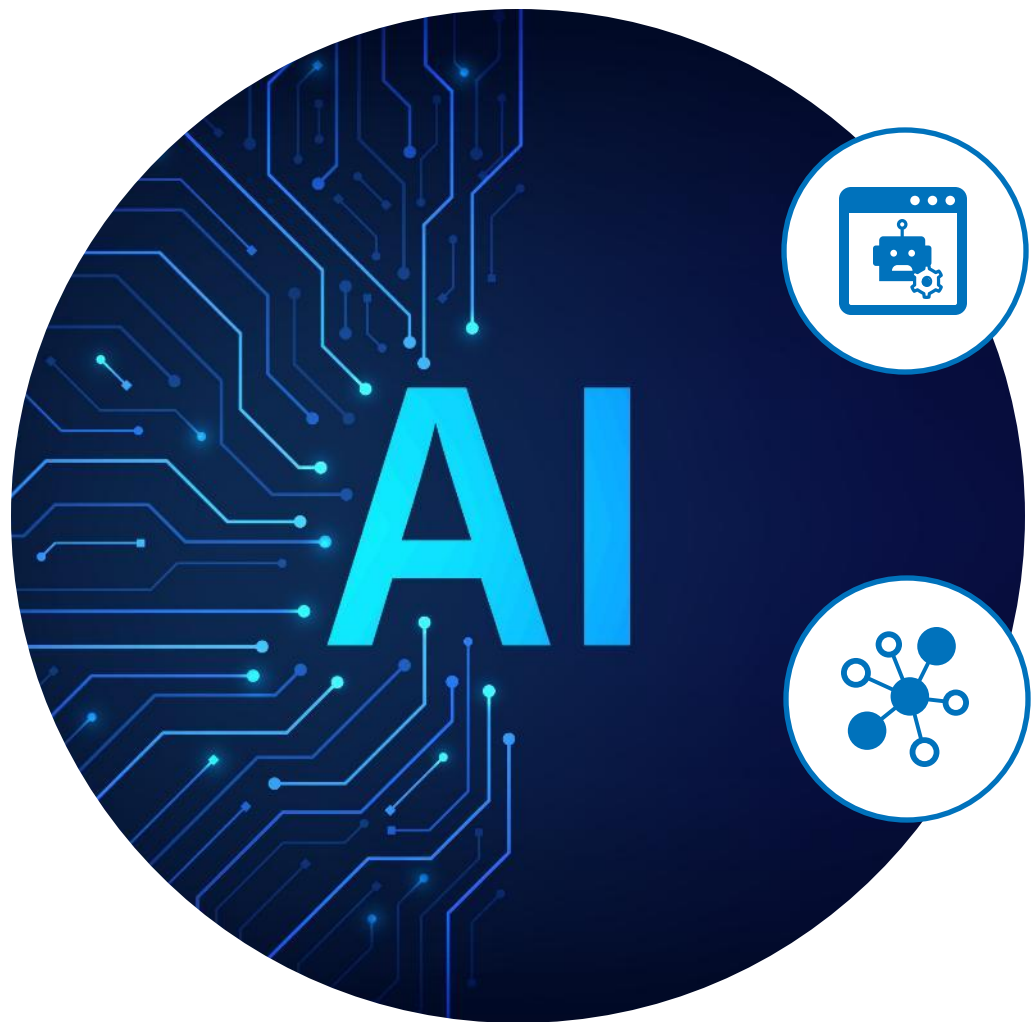
- アプリケーション管理機能の強化 (Accel Studio)
- アプリケーション画面開発機能のUI/UX強化 (IM-BloomMaker/Accel Studio)

3

BPM機能の強化

- BPMソリューション「iGrafx Process360 Live」との連携を強化

①生成AI対応強化



テストシナリオ生成機能を追加

開発した業務アプリケーションのテストシナリオを生成AIで自動生成する機能がAccel Studioに追加されました。これにより、新規開発や製品アップデート時のテスト工数・期間を大幅に削減し、テスト品質も向上します。

最新基盤モデルへの対応

各機能でAmazon NovaやClaude系のモデルなど、最新の基盤モデルが利用できるようになりました。これにより、言語モデルの選択肢が増え、ユースケースに応じた最適なモデルを選定することで、高精度なAI活用、品質向上、コスト削減が期待できます。

②ローコード開発/DevOps機能の強化



アプリケーション管理機能(Accel Studio)の強化

複数のリソース（画面コンテンツ、ロジックフロー、テスト定義など）の一括追加や、2025 Springから利用可能なテスト機能の機能追加や改善を実施しました。これにより、開発時のリソース管理や試験実施が効率化され、アプリケーション開発全体の効率と品質、及び開発生産性が向上します。

アプリケーション画面開発機能のUI/UX強化

IM-BloomMakerのレイアウトモード、及び、Accel Studioテンプレートの一部がintra-mart Design Systemに対応しました。これにより、デザインシステムのデザインガイドラインやUIパターンに準拠した画面の開発が可能になり、一貫性のある使いやすいUI/UXを実現できます。

③BPM機能の強化



BPMソリューション「iGrafx Process360 Live」との連携を強化

iGrafx Process360 Liveとの連携を強化しました。具体的には、iGrafxで作成したBPMN 2.0図をIM-BPMにインポートでき、IM-BPMのプロセス実行ログをiGrafx Process360 Liveに連携することが可能になりました。これにより、iGrafx Process360 Liveが支援する業務プロセスの可視化、分析、最適化とIM-BPMでのプロセス実装・実行が連携し、業務プロセスの設計から実装、分析、最適化までを一貫して行えるようになり、開発効率と業務改善を大幅に促進します。

※「iGrafx Process360 Live」はiGrafx, LLC(米国)が提供する製品および商標です。また、IM-BPMとの連携を行うには別途サービス契約が必要です。詳細は弊社またはBiXiコンサルティング社までお問い合わせください。

03

生成AI対応

アップデート内容（生成AI対応の強化）

新規開発やアップデート時にテストシナリオ自動生成を利用することで、**工数削減とテスト品質向上**や、最新基盤モデル拡充による**高精度なAI活用を促進し、ローコード開発と生成AIの融合で業務効率化を大きく拡大**します。

2025 Autumnでは主に以下の生成AI関連の機能強化を行いました。

対象アクター

業務設計者 /
ビジネスアナリスト

UI/UX
デザイナー

開発エンジニア /
モジュール設計者

運用管理者 /
システム利用者

Accel Studio

1. テスト生成機能を追加

- ▶ 生成AIによるUIテストの自動生成が可能になりました



IM-Copilot

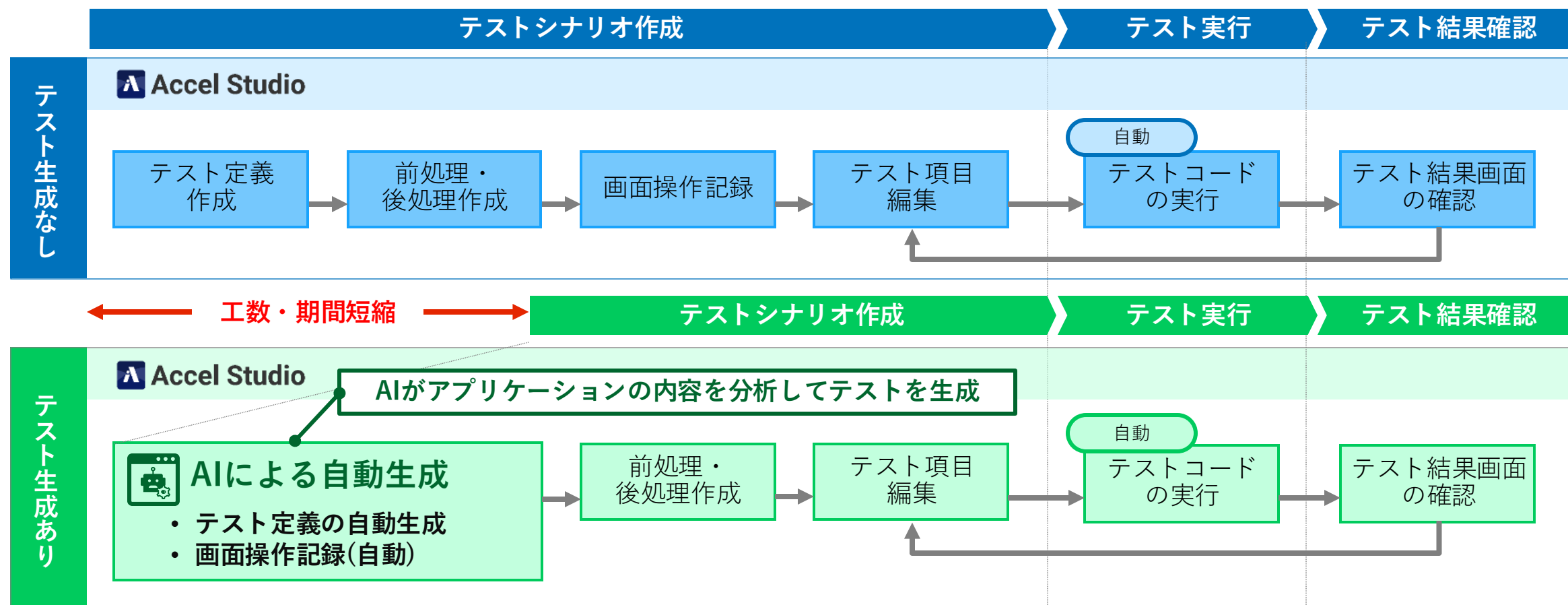
2. 最新基盤モデルを追加

- ▶ Amazon Novaの追加や、各機能の対応モデルの変更を実施しました



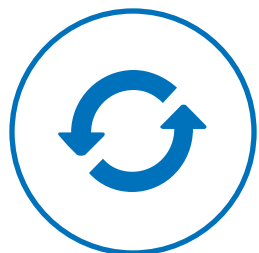
1. Accel Studioの自動テスト機能にテスト生成機能を追加

開発した業務アプリケーションのテストシナリオを生成AIで自動生成する機能が追加されました。
これにより、**新規開発や製品アップデート時のテスト工数・期間を大幅に削減**し、**テスト品質も向上**します。



テスト生成機能のメリットと注意点

テストシナリオ生成による試験工数とコスト削減がもたらす価値



アップデート期間・工数の大幅な削減

セキュリティ強化や新機能追加を目的として継続的にアップデートを適用していただくための、アップデート時のテスト期間・工数の削減が可能になります。



テスト品質の早期確保（オンボーディング）

アプリケーションを指定するだけでテストを生成可能なため、試験工程に不慣れな担当者でも早期にテストコードを作成できます。試験担当者の生産性を早期に引き出すことが可能となります。

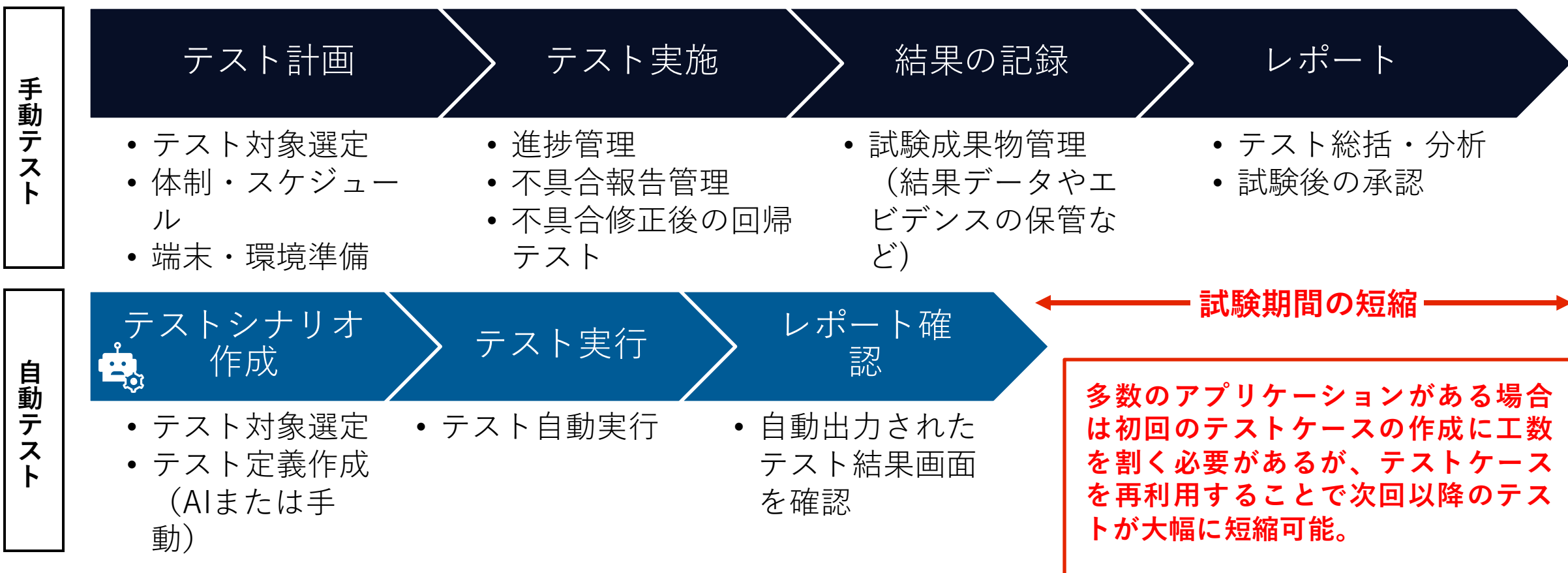
テスト生成機能利用時の注意点



- ✓ テスト生成機能は、生成AIによってテスト定義の作成を支援するものです。作成されるテスト定義は、基本的にそのままテスト実行できるものではなく、状況に合わせて修正する必要があります。
- ✓ 生成される内容については正確性・完全性・目的適合性を保証するものではなく、意図しない応答や目的外の情報が含まれる場合があります。

自動テストと生成AIによるテスト生成の導入による効果

開発スピードと品質の両立を実現し、開発生産性を向上させるには自動テスト機能が有効です。
テストシナリオをAIに自動生成させることで、**より迅速な業務アプリケーション開発を実現**します。



※記載されている試験工程やタスクは一例です。

2. 最新基盤モデルへの対応

Amazon NovaやClaude系のモデルなど、最新の基盤モデルが利用できるようになりました。
ユースケースに応じた最適なモデルを選定することで、**高精度なAI活用、品質向上、コスト削減**が期待できます。

連携可能な生成AIサービス（AIプラットフォーム）



OpenAI



Azure OpenAI Service



Amazon Bedrock



IM-Copilot

2025 Autumnにおける主な基盤モデルの対応

- 基盤モデル「**Amazon Nova**」に対応（後述）
- 各種アクションAPIにClaude、GPT-4.1系列のモデルを追加
- Wikiアシスタントで利用可能なモデルを変更可能にし、利用可能なモデルを追加(IM-Wiki)
- SQL自動生成機能(ViewCreator)で利用可能なAIサービスにAzure OpenAI Serviceを追加

基盤モデル「Amazon Nova」対応

Amazon Bedrockで利用可能なモデルである「**Amazon Nova**」が利用可能になりました。
これにより、**用途に応じたモデル選択が可能**となり、**運用効率の向上**が期待されます。

対象機能

- ✓ IM-LogicDesignerタスク
- ✓ アクションAPI
- ✓ Wikiアシスタント (IM-Wiki)

※開発者向けアシスタントは対応していません。

※各機能に対応する具体的なモデルは「[IM-Copilot 利用ガイド - サポートモデル一覧](#)」をご確認ください。

利用メリット

- ✓ モデル選択肢の拡大
- ✓ 低コスト
- ✓ 高速応答・低レイテンシ

Amazon Novaとは



Amazon Nova

Amazon Web Services (AWS) が提供するフルマネージドのAIプラットフォーム「Amazon Bedrock」で利用可能な基盤モデルです。

高速応答と優れたコスト効率を両立しているのが特徴です。用途に応じて選べる複数のモデルを備え、長大な文書や複雑なコード処理、多言語対応など幅広いニーズに対応可能です。

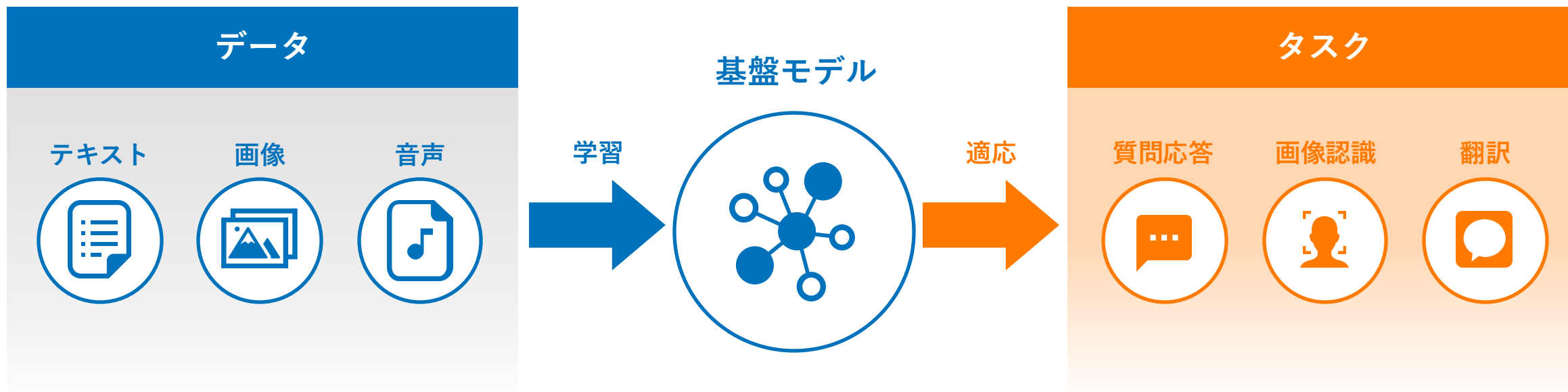
【参考】 基盤モデルとは

基盤モデル

代表的な基盤モデル：

GPT-4o(OpenAI)、DALL-E (OpenAI) 、Claude (Anthropic) など

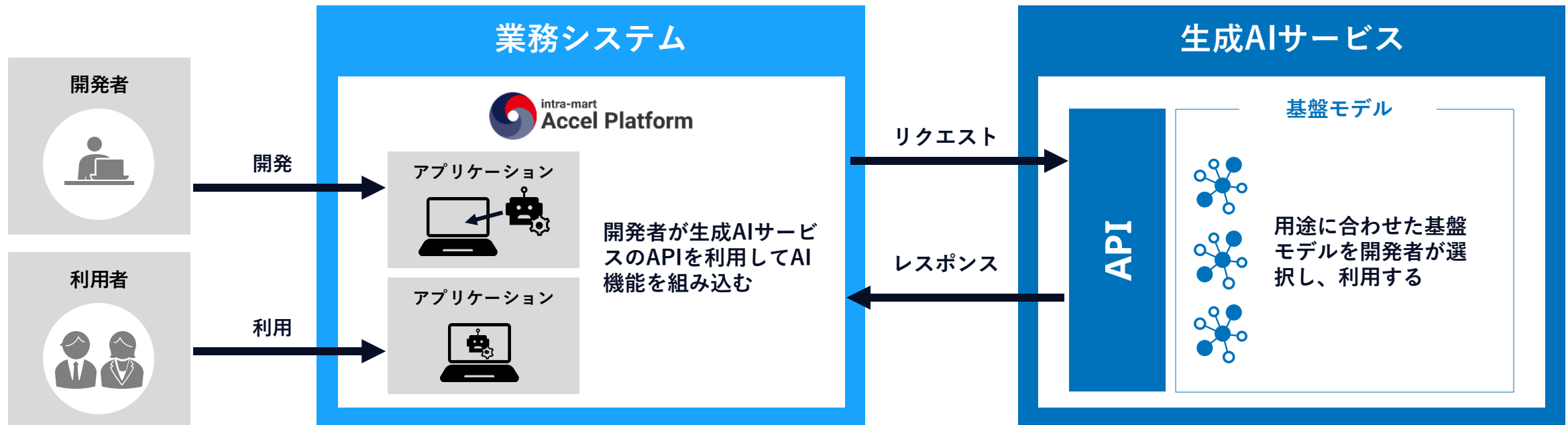
「基盤モデル」とは、大量のデータを学習して多様なタスクに応用できる汎用的なAIモデルのことです。AIの「モデル」とは学習した知識やルールのまとまりのことであり、代表的なものに、文章の生成や要約、質問応答を行う大規模言語モデル（LLM）があります。さらに、画像や音声など複数の情報を統合的に理解・生成できるマルチモーダルモデルも登場しており、業務システムやアプリケーション開発への応用が急速に進んでいます。



【参考】 生成AIサービス（AIプラットフォーム）とは

生成AIサービス（AIプラットフォーム）

「生成AIサービス」とは、企業や開発者が生成AIを安全かつ容易に利用できるクラウド基盤です。代表的なサービスとしてAmazon BedrockやAzure OpenAI Serviceがあります。これらのサービスには多様な「基盤モデル」が用意されています。基盤モデルをAPI経由で利用し、業務アプリケーションに文章生成、要約、分析などのAI機能を組み込むことができます。



生成AI関連機能 開発ロードマップ

対応予定
領域
／実現可能
になること



部品提供

開発者が生成AIを活用したアプリケーションを作成できる。



従業員/開発者の
支援

従業員や開発者が生成AIに支援されながら業務を遂行できる。



自律的に
業務遂行

従業員が業務を依頼するとエージェントが自律的に業務を遂行できる。



パーソナル
エージェント

従業員がやるべき業務を提案し、従業員の依頼を自律的に遂行できる。

対応予定
詳細項目

各種ドライバ提供

IM-LogicDesigner対応

Amazon Nova対応

その他言語モデル対応

IM-Knowledge対応

SQL生成

アシスタント開発

アプリケーション生成

テストシナリオ生成

AIエージェント対応

エージェント開発

パーソナライズ

ポータル対応

モバイル対応

IM-BPM対応

IM-BloomMaker対応

■ 提供済 ※

■ 2025 Autumn

□ 未定（検討中）

※ 提供済み機能の強化、改善、安定性の向上等は継続的に検討予定

生成AI活用のユースケース

intra-martコミュニティサイト「icoNEO」内のコンテンツとして、生成AI活用のアプリケーション例やプロンプト集、及び、生成AIを活用するためのナレッジや手法を公開しております。

icoNEOサイト

▶ <https://iconeo.intra-mart.jp/imart/login>

(要アカウント登録)

生成AIユースケースカタログ

IM-Copilot



デジタル業務改革を加速させるエンタープライズ・ローコード プラットフォーム「Accel Platform」上で、生成AIの力を活用したアプリケーション開発を支援する「IM-Copilot」。

IM-Copilotを使えば、プログラミングの知識がなくても、生成AIの力を借りて、高度なアプリケーションを手軽に作成できます。

IM-Copilotの詳細については、以下の利用ガイドをご覧ください。
[IM-Copilot利用ガイド](#)

生成AIを使い、業務効率化を支援するアプリケーションとプロンプト集

本カタログでは、IM-Copilotを使ったアプリケーション実装例や、生成AIを効果的に活用するためのプロンプト例を豊富に紹介しています。

アプリケーションやプロンプトを使って、業務効率化や問題解決につながるアイデアを形にしてみませんか？

デジタル業務改革の新たな一歩を踏み出すヒントが、きっと見つかるはずです。

アプリケーション例

プロンプト集

IM-Copilotを活用したアプリケーションで、業務の効率化と生産性向上を実現！

このアプリケーション例では、実際の業務で生成AIを使うとどれだけ楽になるかを実証しています。



生成AI活用メソドロジー

intra-mart 生成AI活用メソドロジー 改訂情報

検索

生成AI活用メソドロジー

生成AIを活用するために必要となる様々なナレッジ、手法を紹介します。

[ここからスタート](#)



04

ローコード開発/DevOps機能

ローコード開発・DevOps機能強化

Accel Studioのリソース一括追加やテスト機能の機能追加・改善によりDevOpsが強化され、さらに、デザインシステム対応の拡大で**一貫性のあるUI/UXが実現し、開発効率が更に向上**しました。

2025 Autumnでは主に以下のローコード開発/DevOps機能強化を行いました。

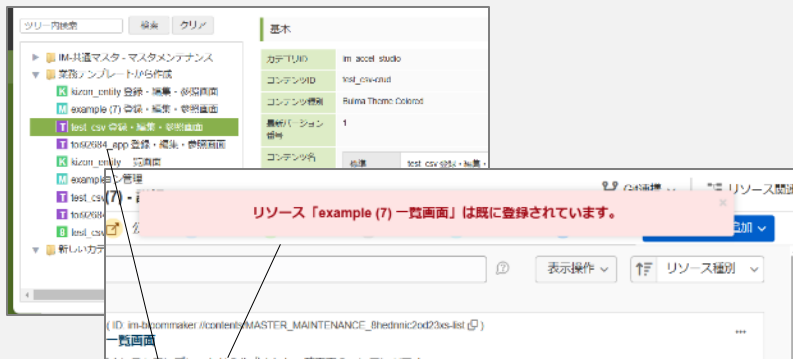
	対象アクター	業務設計者 / ビジネスアナリスト	UI/UX デザイナー	開発エンジニア / モジュール設計者	運用管理者 / システム利用者
Accel Studio					
- アプリケーション管理機能(Accel Studio)の強化 - リソース管理機能やテスト機能の機能追加・改善					
Accel Studio / IM-BloomMaker					
- アプリケーション画面開発機能のUI/UX強化 - レイアウトモード、テンプレートのデザインシステム対応					

1. アプリケーション管理機能の強化（①リソース管理）

Accel Studioのアプリケーションに紐づくリソース（ローコード資材）の追加時に複数選択が可能になり、また、紐づけ済みリソースを選択出来ないようにするなど、リソースの操作を改善しました。
これにより、**リソースが多い複雑なアプリケーションの開発効率が向上**します。

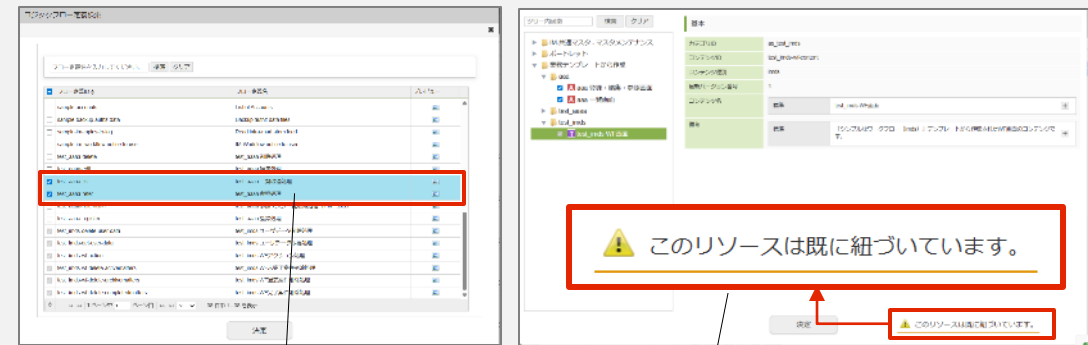
リソース操作の改善

これまでのリソース選択操作



リソースは1つずつしか追加出来ない。
また、紐づけ済みの既存リソースが表示されており、追加すると画面上でエラーになってしまう。

2025 Autumn以降のリソース選択操作



複数のリソースを選択して追加可能になる。
また、既に紐づけ済みのリソースは選択不可になる。

※追加する資材の種類によっては複数選択不可、または、紐づけ済みのリソースが表示されます。詳細は[アプリケーション管理機能仕様書](#)をご確認ください。

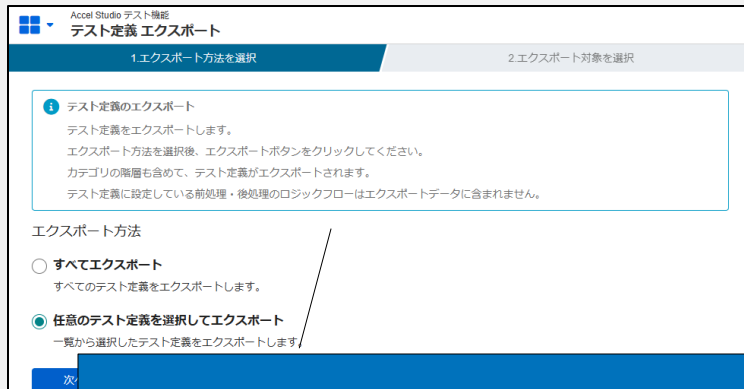


1. アプリケーション管理機能の強化（②テスト機能）

テスト定義の個別インポート・エクスポート機能が追加され、**テスト資産の再利用性が向上**しました。
さらに、テスト結果画面内の失敗した**テストコードの箇所が一目でわかる**ように改善されたため、**デバッグ効率が大幅に向上**します。

テスト機能の強化ポイント

テスト定義ごとの個別インポート・エクスポート機能を追加



特定のテスト定義を他のアプリケーションやプロジェクト、異なる環境へ容易に移植・再利用できるようになり、環境依存の不具合の確認が可能。



テスト結果画面のテスト失敗箇所のコード表示



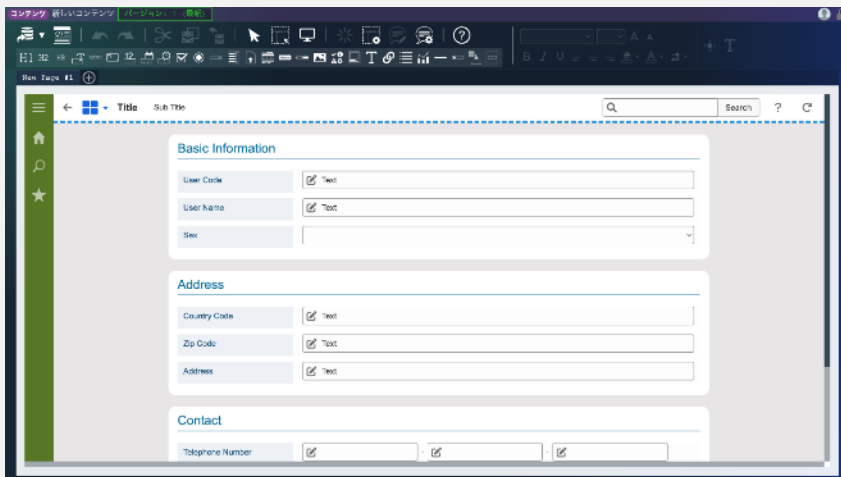
テストコードの失敗箇所のログ表示が可能になり、修正箇所を容易に発見可能。

2. アプリケーション画面開発機能のUI/UX強化（①レイアウトモード）

IM-BloomMakerのレイアウトモードで「intra-mart Design System」(imds)のデザインガイドラインに準拠した画面開発が可能になりました。

これにより、**一貫性のある使いやすいUI/UXを持つ画面開発を実現し、開発効率と品質が向上**します。

コンテンツ種別「imds」のレイアウトモード画面



※レイアウトモードではコンテンツ種別「Bulma」と「Bulma Theme Colored」も利用可能です。「imui」はレイアウトモードでは利用できません。

デザインシステムとは？

IT製品を開発するためのデザインに関する原則、ガイドライン、UI部品（コンポーネント）、画面テンプレートなどを定義したドキュメント、及び、コードを提供するものです。

デザインシステムを利用して画面の設計・デザインを実施することで、UI（デザイン性）/UX(ユーザー体験)を向上させることが可能です。

デザインシステム(intra-mart Design System)

▶ <https://document.intra-mart.jp/design/>

2. アプリケーション画面開発機能のUI/UX強化（②テンプレート）

「intra-mart Design System」(imds)のデザインガイドラインに準拠した画面開発が可能なAccel Studioのテンプレート「シンプルなワークフロー(imds)」を追加しました。

Accel Studio テンプレート

デザインシステムに対応した画面をテンプレートからすぐに作成可能になることで、デザインガイドラインに準拠した画面開発をすぐに始めることが可能です。デザイン検討にかかる工数を削減でき、開発プロセスを効率化できます。

従来の「シンプルなワークフロー」テンプレート

従来のテンプレートは「Bulma Theme Colored」で作成される。

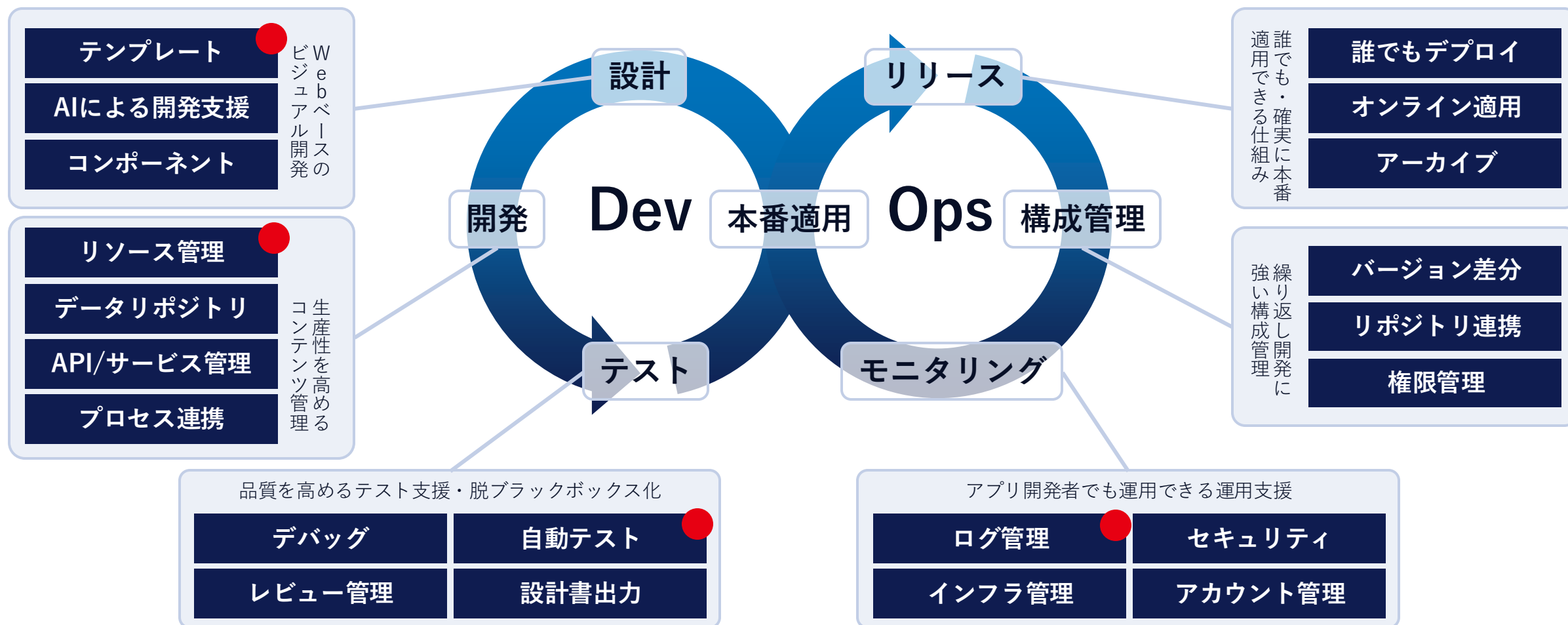
「シンプルなワークフロー (imds)」(新規)

デザインガイドラインに準拠したワークフロー画面を素早く作成可能。

intra-mart Accel PlatformにおけるDevOps機能

intra-martのローコード開発は一般的なローコード開発と異なり、大規模システムの開発・運用に対応可能な各種DevOps機能を搭載しております。

● 2025 Autumn 強化ポイント



ローコード開発と生成AIを取り入れたDevOpsライフサイクル

DevOpsは、開発から運用までを連携させ、迅速かつ効率的なシステム開発と安定運用を実現する考え方です。ビジネス部門とIT部門が密接に連携し、**ローコード開発に加えて生成AIを活用する**ことで、アプリケーション作成やテスト作成の自動化が可能になり、アジャイルなサイクルで価値を素早く提供します。

設計フェーズのアクション



AIによる設計支援

AIで生成したプロトタイプ画面と業務フローで業務システムの改修案を合意する。



業務設計者 /
ビジネスアナリス
ト



UI/UX
デザイナー



システム利用
者

開発・テストフェーズのアクション



AIによる開発支援

プロトタイピングで合意した仕様に基づいて開発・テストを実施する。



UI/UX
デザイナー



開発エンジニア /
モジュール設計者

リリース・本番適用フェーズのアクション

本番環境をリリースし、システムの運用を運用管理者に引き継ぐ。



開発エンジニア



運用管理利用者

運用・構成管理フェーズのアクション

システムの運用状況を継続的に監視する。また、業務改善効果を確認する。



運用管理利用者



業務設計者 /
ビジネスアナリス
ト



システム利用
者

05

BPM機能

iGrafx Process360 Liveとは

iGrafx®

iGrafx Process360 Liveとは、業務プロセスの可視化、分析、自動化を1つのプラットフォームで実現する業務プロセス最適化ソリューションです。

現状把握と方針の立案

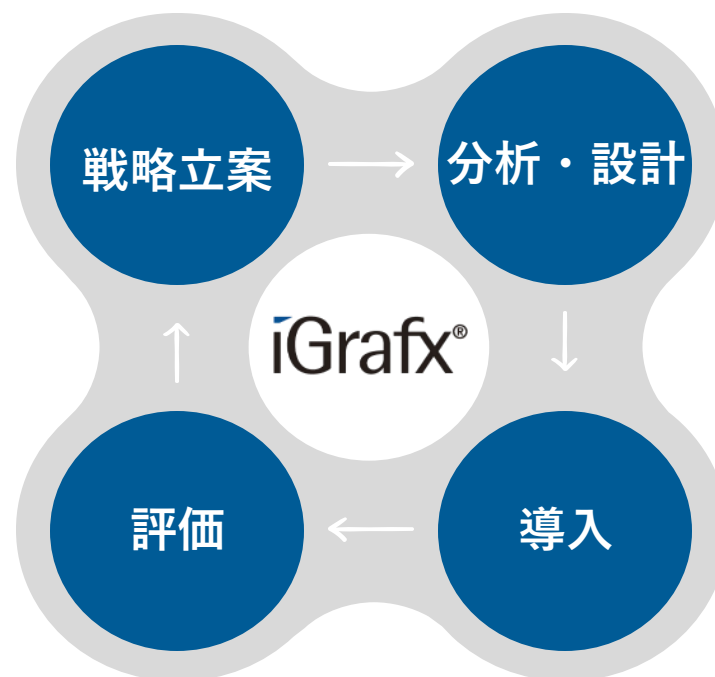
- 事業構造のモデル化
- 追跡する指標の明確化（KPI定義）

Process360 Live Modeling

プロセスの監視と評価

- 標準プロセスの徹底とKPI評価
- 例外プロセスと異常値の把握

Process360 Live Mining



業務分析と再設計

- ボトルネックと非効率の発見
- 改善効果のシミュレーション

Process360 Live Modeling

Process360 Live Mining

Process360 Live Simulation

業務の自動化

- 豊富な各種システムとの連携アダプタ（OpenAI、RPA、ITシステム）

▶ 株式会社BiXiコンサルティングより、iGrafx Process360 Liveを「iGrafx マネージドサービス BiXi DAIA powered by iGrafx」としてご提供しております。詳細は弊社または株式会社BiXiコンサルティングまでお問い合わせください。（https://www.bixic.com/bixi_daia）

iGrafxとintra-mart連携によるDTOの実現

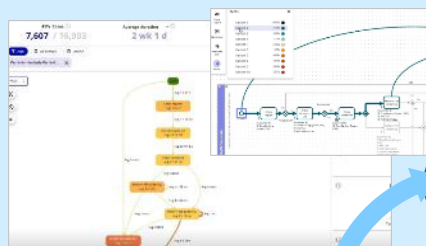
- ▶ デジタルツインとは、現実世界のモノや情報をデジタル空間上で忠実に再現する技術のこと
- ▶ DTO(Digital Twin of an Organization)とは、組織の活動をデジタル空間上で再現して改善を考える仕組みのこと

iGrafx®

戦略

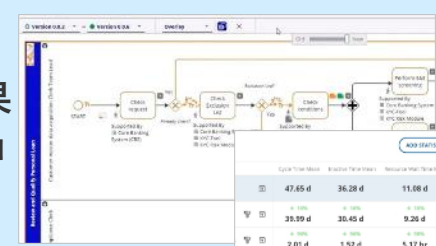
プロセス設計とマイニング

データをもとに現状を可視化し、業務のあるべき姿を設計



シミュレーション

デジタル化された改善効果を定量的にシミュレーション



Plan

Do

Check

Action

intra-mart®

実行

モニタリングと改善

業務プロセスを監視し、DX改善サイクルを管理・運用



プロセス実行

ローコード開発によりシステムを素早く実装



iGrafxで最適化プロセスを設計・分析し、intra-martで実行・運用することで、業務改善サイクルを向上させる「業務プロセスのデジタルツイン（DTO）」を実現

BPM機能の強化(iGrafX連携)

iGrafX Process360 LiveとIM-BPMの連携を強化しました。2つの製品を利用することで、業務プロセスの設計、実装、実行、分析、最適化という **ライフサイクル全体を一貫して管理することが可能**になります。

2025 Autumnでは主に以下のBPM機能強化を行いました。

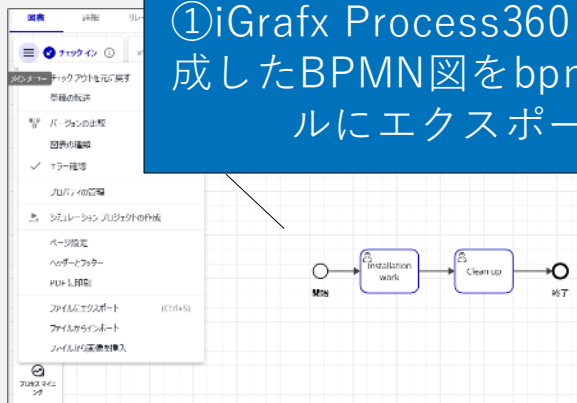
	対象アクター	業務設計者 / ビジネスアナリスト	UI/UX デザイナー	開発エンジニア / モジュール設計者	運用管理者 / システム利用者
IM-BPM					
1. iGrafXで作成したBPMN 2.0図のインポート ▶ 業務プロセスの設計から実装へのシームレスな移行が可能					
2. IM-BPMのプロセス実行ログをiGrafXへ連携 ▶ 実際に実行された業務ログをiGrafX上で分析可能					

1. iGrafxで作成したBPMN 2.0図のインポート

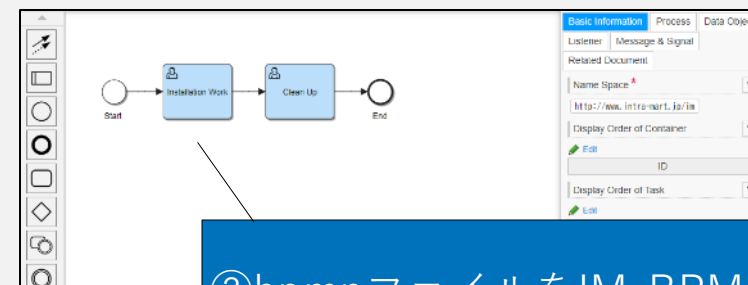
iGrafx Process360 Liveで作成したBPMN 2.0図をIM-BPMにインポートすることが可能になりました。**設計から実装へのシームレスな移行を可能にし、実行可能な業務プロセスの実現を促進**します。

BPMNのエクスポート/インポート

①iGrafx Process360 Liveで作成したBPMN図をbpmnファイルにエクスポート



bpmn
ファイル



iGrafxでIM-BPM向けのBPMN図を作成する場合の注意

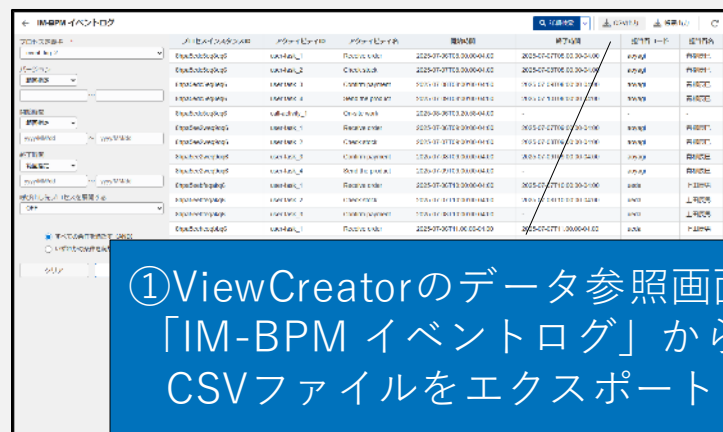
IM-BPMにインポートするBPMN図を作成する際は、基本的にBPMN 2.0に準拠した要素のみをご利用ください。
詳細は「[iGrafx Process360 Live for IM-BPM 連携ガイド](#)」をご確認ください。

2. IM-BPMのプロセス実行ログをiGrafxへ連携

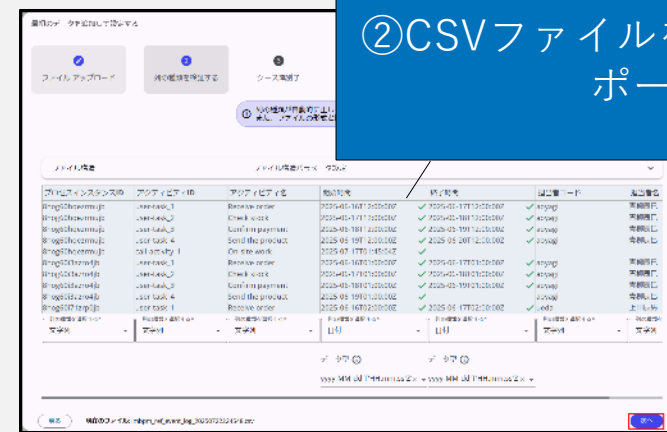
イベントログ（プロセス実行ログ）をiGrafx Process360 Liveに連携することが可能になりました。
実際に実行された業務の分析、問題点の迅速な特定、継続的な改善を図ることが可能になります。

イベントログ（プロセス実行ログ）の連携

タスクの開始・終了時間などの実行ログを連携



業務データ連携、API連携は
2026 Springにて対応予定



IM-BPMのイベントログを出力するための設定変更について

iGrafxに連携するイベントログはViewCreatorのCSV出力機能を使用して抽出されます。
 必要な設定ファイルの変更については「[iGrafx Process360 Live for IM-BPM 連携ガイド](#)」をご確認ください。

システム連携フロー（iGrafx × intra-mart）

1. 設計

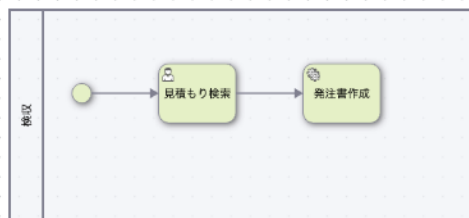
2. 実装

3. 運用（実行）

4. 分析

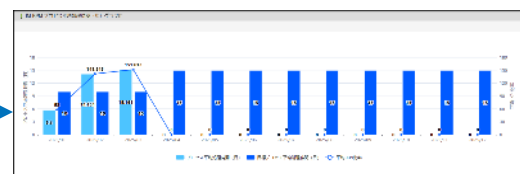
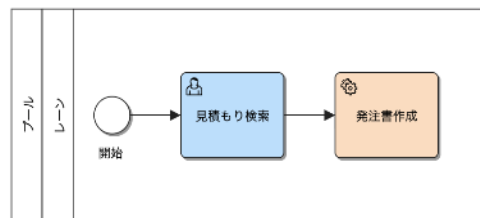
iGrafx®

業務プロセスを設計し、
BPMN図を作成する



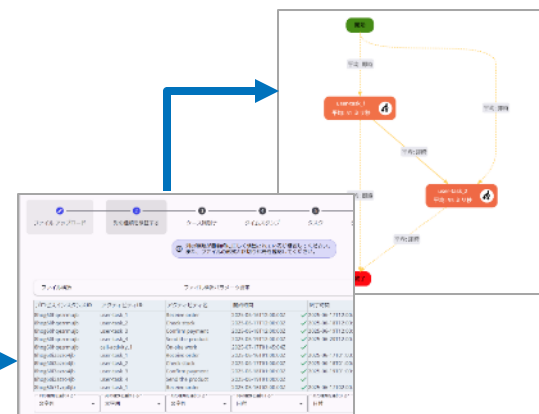
intra-mart
Accel Platform

BPMN図の業務プロセスに従った業務
システムを実装し、業務システムを運
用してデータを収集する



iGrafx®

運用データを分析し、ボ
トルネックを可視化（プ
ロセスマイニング）



06

その他のアップデート

ログ出力対象となる機能の追加（トレーサビリティ向上）

マスターデータ更新ログや操作ログの出力対象の機能を追加しました。**システム・業務監査要件への対応、開発・運用資材の管理操作の変更の追跡、エラーの原因分析**が強化されます。

2025 Autumnで追加されたログ出力対象機能や操作は下記の通りです。

Accel Studio

マスターデータ更新ログ

アプリケーション登録・更新・削除

リソース登録・更新・削除

リソース関連追加・削除

カテゴリ追加・更新・削除

テンプレート作成・更新・削除

リモートリポジトリ登録・紐づけ削除・更新

採番定義 カテゴリ追加・更新・削除

採番定義作成・更新・削除

共通定数定義 カテゴリ追加・更新・削除

共通定数定義作成・更新・削除

多言語メッセージ カテゴリ追加・更新・削除

多言語メッセージグループ作成・更新・削除

多言語メッセージ作成・更新・削除

ViewCreator

マスターデータ更新ログ

クエリ定義の作成・更新・削除

データ参照定義の作成・更新・削除

ルーティング定義の作成・更新・削除

ViewCreator操作ログ

クエリ編集画面のプレビュー

データ参照編集画面のプレビュー

データ参照画面での表示・検索・ページネーション・ソート操作

リスト・サマリ集計のCSV出力

ルーティング定義の実行

ユーザーエクスペリエンス向上

製品を使いやすく魅力的に感じていただくために、デザインの改善や最適化を継続して実施しています。
2025 Autumnでは**ユーザーエクスペリエンス向上**を目的とした機能追加や改善を実施しました。

2025 Autumnでは主に以下の機能強化、改善を行いました。

	対象アクター	業務設計者 / ビジネスアナリスト	UI/UX デザイナー	開発エンジニア / モジュール設計者	運用管理者 / システム利用者
IM-BloomMaker					
1. コンテンツ定義とルーティング定義の導線改善 ▶ 互いに紐づけられている定義の確認・編集を容易に					
2. アクションアイテム編集時の入力欄の改善 ▶ 変数・固定値を複数行で編集できるようにしました					
3. デザイナのパレットに表示するエレメントを制御可能 ▶ 利用するエレメントの並び順や表示・非表示を変更可能に					

1. ルーティング定義とコンテンツ定義の導線改善

ルーティング定義一覧画面に「コンテンツ参照ボタン」と「デザイン編集」ボタン、コンテンツ定義一覧画面にルーティング一覧を表示するボタンを配置しました。互いに紐づいている定義に対する操作（確認・編集）が容易になり、IM-BloomMakerを利用した**画面開発の効率が向上**します。

BM IM-BloomMaker

ルーティング定義一覧画面

ルーティング定義一覧画面のスクリーンショット。画面には「ルーティング」「前処理」「コンテンツ」の列があり、各項目のIDや名前が表示されています。コンテンツ列には「コンテンツ参照」と「デザイン編集」のボタンが配置されています。また、複数のルーティング定義と紐づいているコンテンツを編集すると、他のルーティング定義にも反映されるので注意してください。コンテンツに紐づいているルーティング定義は、コンテンツ情報の「紐づいているルーティング定義一覧」ボタンから確認できます。

ルーティング定義画面から直接、
コンテンツの確認やデザイン編集が可能になりました

コンテンツ一覧画面

コンテンツ一覧画面のスクリーンショット。画面には「基本」のタブがあり、コンテンツのリストが表示されています。右上には「バージョン一覧」と「紐づいているルーティング定義一覧」のボタンがあります。また、IM-DesignSystemに準拠したデザインの画面を作成できます。一貫性のある、使い手の良いユーザーインターフェースを効率的に構築できます。コンテンツ種類 Buima とコンテンツ種類 imdy の互換性については IM-BloomMaker ユーザーガイドを確認してください。

コンテンツ一覧から直接、
ルーティング定義の確認・編集が可能になりました

2. アクションアイテム編集時の入力欄の改善

アクションアイテムの変数・固定値指定の入力欄において、長いパスや値でも入力内容が全桁表示されるように表示方法を改善しました。**開発者の視認性とユーザビリティが向上**します。

BM IM-BloomMaker

入力欄の縮小時

アクションアイテム説明

1 変数 `${}` `$variable.state` に `${}` `$env.const.fals` を代入する

入力欄の拡張時

アクションアイテム説明

変数 `${}` 代入先 に `${}` 代入元 を代入する

1 `${}` 代入先
`$variable.state.tableData[$index].test`

`${}` 代入元
`$env.const.false`

改善点

変数パスの文字列が長い場合、入力内容の一部分しか見えない状態になっており、表示されるツールチップで確認する、テキストエディタにコピーして編集するなどの対応が生じていました。

今回のアップデートで表示切替ボタンが配置され、拡張時は入力内容のすべての文字列が見えるように、長いパスの場合は入力欄を拡張して複数行にまたがって表示します。

関連ドキュメント

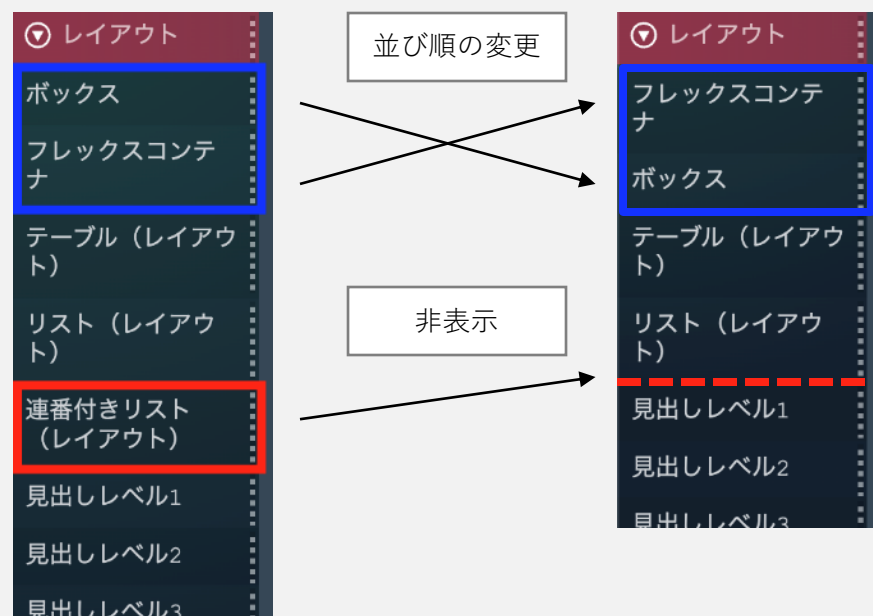
- ▶ [IM-BloomMaker ユーザ操作ガイド - 表示切替機能](#)

3. デザイナーのパレットに表示するエレメントを制御可能

パレット内に表示されているエレメント・エレメントセットの並び順や表示・非表示の制御が可能になりました。開発時に利用する部品の一貫性や制限が可能になり、**開発規約に準拠させるなどの管理性が向上**します。

BM IM-BloomMaker

デザイナー画面 - エレメントパレット



背景・目的

パレット内に表示されるエレメント・エレメントセットは、既定の状態では、登録されているものすべてが使用できます。ただし、文字列の表示においては「ラベル」や「テキスト表示」など複数の部品が存在しています。使用する部品を統一するためには開発規約などを画面開発者に提供して、目視等で規約違反がないか確認する必要があります。

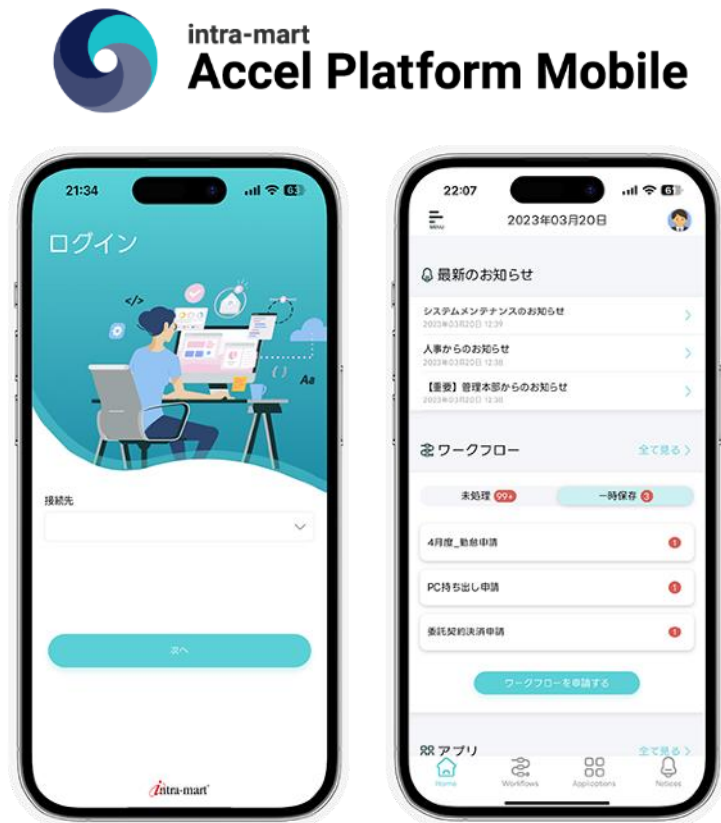
使用できるエレメントやエレメントセットを管理者側が制御可能としたことで、規約に準拠する画面の作成をサポートします。

要件情報公開サイト

▶ [要件 #30483 - IM-BloomMaker for Accel Platform](#)

Accel Platform Mobileの主なアップデート内容

モバイルアプリケーション利用時の**利便性向上**を目的としたワークフロー関連の機能強化、表示改善などを実施しました。



1. ワークフロー関連画面の機能強化

- ▶ 申請一覧画面にソート機能を追加
- ▶ 承認画面に連続/一括承認機能を追加

2. ユーザーインターフェースの改善

- ▶ ポータル画面の「最新のお知らせ」が1件も存在しない場合に非表示にするように変更

3. ログ収集・フィードバック機能の変更

- ▶ ASEAN地域向けカスタマーサクセスライセンスの環境の場合にログ収集機能、及び、フィードバック機能を停止

- ▶ 詳細、及び、その他のアップデート内容は[Accel Platform Mobile リリースノート](#)をご確認ください。

【参考】Accel Platform Mobileのユースケース例



(例) NFCタグを利用した設備点検記録

ユースケース概要	建物の設備点検においてNFCタグが設置された現場で作業をしている点検担当者が、スマートフォンで点検記録用入力画面をNFCタグから呼び出して点検結果を入力し、ワークフローで点検管理者に報告する。
主なステップ(例)	設備点検実施→NFCタグの読み取り(点検記録画面の表示)→申請→案件の確認と承認(プッシュ通知)
利用する機能	- ローコード開発で構築されたワークフロー申請画面 (Accel Platform Mobileアプリ上で表示) - NFC読み取り機能 (点検結果入力のワークフロー画面の呼び出し) - プッシュ通知

Accel Platform Mobileを利用するメリット

- ✓ **モバイル向け開発コストの削減(開発者視点)**：ローコード開発機能で作成した業務アプリケーションの画面をスマートフォンアプリから利用し、モバイル向けに別途開発を行うコストを削減。
- ✓ **現場業務の効率化(利用者視点)**：タグにタッチするだけで対象設備に対応した点検記録画面を瞬時に開き、迅速な現場業務が可能。
- ✓ **リアルタイムな対応(管理者視点)**：プッシュ通知により、管理者へのお知らせや業務依頼がリアルタイムに配信されるため、承認遅延を最小限に抑える。

点検担当者



NFCにタッチするだけで、専用アプリがすぐ開く！点検記録がスムーズだね

点検管理者



プッシュ通知で承認依頼をリアルタイム受信。外出先でもすぐ承認できるのは便利

▶ さらなる活用として、点検記録や作業時間のデータを活用した業務プロセス分析などもAccel Platform上であれば実現可能

DPS for Sales(営業支援ツール)のサポート対象バージョン追加

DPS for Salesの最新バージョン8.0.12以降のバージョンにおいて、Accel Platformの最新バージョンと過去2バージョンをサポート対象にしました。これにより、追加導入が可能になる範囲が広がります。

▼ サポート対象バージョン対応表

【凡例】 ○：サポート対象(予定含む) ×：非対応

Accel Platform バージョン(※1)	DPS for Sales (※2)					CSL IM-Copilot 使用可能	永続ライセンス IM-Copilot 使用可能
	8.0.10	8.0.11	8.0.12	8.0.13	8.0.14		
2024 Spring	○					○	×
2024 Autumn		○	○			○	×
2025 Spring			○	○		○	○
2025 Autumn			○	○	○	○	○
2026 Spring				○	○	○	○
2026 Autumn					○	○	○

 **DPS for Sales**

▶ DPS for Salesの最新情報は[DPS for Sales 運用ポータル - リリース情報](#)をご確認ください。

※1 Accel-Mart Plus環境にインストールされているバージョンも含みます。

※2 リリース予定のバージョン8.0.13及び8.0.14も最新バージョンと過去2バージョンを対応予定です。

※3 DPS for Salesの生成AI機能は8.0.12にてリリースされました。(次ページ参照)

DPS for Sales(営業支援ツール)の生成AI機能

DPS for Sales 8.0.12において、生成AIによる営業活動内容の自動登録機能や名刺読み取り機能の強化を実施しました。これにより、**生成AIを活用した営業業務の効率化**が可能になります。

生成AI対応の強化

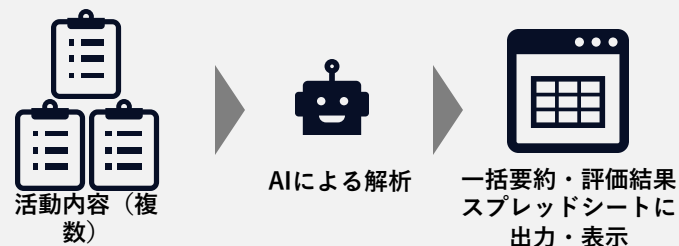
 **DPS for Sales**

音声・テキストからの活動登録



営業活動報告の効率化

活動内容の一括要約と評価



上長による確認・評価の効率化

名刺読み取りの高精度化



顧客情報管理の効率化

注意事項

DPS for Salesの生成AI機能は「**Azure OpenAI Service**」のみご利用いただけます。

お問い合わせ

- 当資料は、アップデートの主要トピックスに限定した説明資料です。
アップデートに関する情報は、要件情報公開サイトをご参照下さい。
▶ <https://issue.intra-mart.jp/>
- システム要件や制限事項につきましては、各製品のリリースノートを
必ずご確認ください。
▶ <https://www.intra-mart.jp/document/library/>



当資料に掲載されている当社の商品・サービス名称等は当社の商標又は登録商標です。
その他の会社名・商品名・サービス名などは各社の商号・商標又は登録商標です。

ご質問等ございましたら、下記へお問い合わせください。



株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・イントラマート
セールス & マーケティング本部

Region / 地域	E-mail	Web
日本	contact@intra-mart.jp	https://www.intra-mart.jp/
Global	info@intra-mart.com	https://www.intra-mart.com/



*i*ntra-mart®

07

FAQ / Appendix

FAQ(よくあるご質問) 1

Q アップデートは必ず実施する必要がありますか？

A

必須ではありませんが、セキュリティ強化や新機能の利用、最新の動作環境への対応のため、定期的な実施を強く推奨しています。

特に、サポート期限が切れたミドルウェア製品を使い続けることは、セキュリティリスクにつながる可能性があります。製品リリースノート記載外やサポート終了のミドルウェアをご利用される場合は、弊社サポート対象外または「条件付きサポート」となります。詳しくは「[製品リリースノート記載以外の動作環境について](#)」をご確認ください。

Q

Q アップデートを適用する場合、今までのアプリケーションはそのまま使えますか？

A

製品標準機能は弊社の動作保証範囲内です。ただし、お客様やパートナー様が開発・カスタマイズされたアプリケーションは弊社の動作保証の範囲外となります。詳細は「[アップデート・パッチにおける動作保証範囲](#)」をご確認ください。

また、アップデートごとに仕様変更や制限事項の変更が実施される場合がありますので、適用前に必ずアップデート対象のバージョンのリリースノートをご確認いただき、開発・カスタマイズされたアプリケーションやモジュールに影響がないかを検証（動作確認テスト）していただく必要があります。

FAQ(よくあるご質問) 2

Q アップデートは有償ですか？

A アップデートの実施には保守サービスの有償契約が必要となります（※）。
保守契約期間及びライセンス期間が有効期間であることを必ずご確認ください。
ただし、利用するライセンスの変更、エディションの変更（エディションアップ）などは費用が発生する場合があります。
※カスタマーサクセスライセンス、Accel-Mart Plusの場合は利用料金に含まれています。

Q アップデートは定期的にリリースされていますか？

A 基本的に年2回（4月、10月）リリースしています（2025年10月現在）。
なお、アップデートとは別に、緊急性の高いセキュリティ対応や不具合修正のためにパッチが随時提供されることもあります。

- 製品アップデートに関するその他の情報やよくあるご質問につきましては、下記サイトも合わせてご確認ください。

- ▶ [バージョンアップ、アップデートの手引き](#)
- ▶ [製品保守ポリシーとアップデート・パッチの考え方](#)
- ▶ [intra-mart製品サポートサイト](#)
- ▶ [Accel-Mart Plusサポートサイト](#)（Accel-Mart Plusをご利用の場合）

2025 Autumnで強化/改善された主な機能のエディション別比較表

機能	Customer Success License			ASEAN		永続ライセンス			Accel-Mart Plus (*1)
	Basic	Advance	Professional	Pro-Code	Low-Code	Standard	Advanced	Enterprise	
IM-Copilot		○	○		○		○	○	○ *2
Amazon Nova対応		○	○		○		○	○	○ *2
Accel Studio		○	○		○			○	○
テスト生成機能		○	○		○			○	○ *2
アプリケーション管理機能		○	○		○			○	○
テンプレート (imds)		○	○		○			○	○
IM-BloomMaker		○	○		○			○	○
レイアウトモード(imds)		○	○		○			○	○
IM-BPM			○		○		*3	*3	*3
iGrafx連携			○				*3	*3	*3

その他の機能のライセンス・エディション別比較表につきましては「[イントロダクション - 5.2 intra-martの製品構成](#)」をご確認ください。

- *1 2025年10月末に2025 Autumn対応予定
- *2 全文検索サーバ/IM-Copilotオプション契約が必要
- *3 IM-BPM for Accel Platformライセンス購入が必要

その他のアップデート内容

その他の、2025 Autumnバージョンで実施された主なアップデートの概要は以下の通りです。
詳細は各機能・製品のリリースノートまたは要件情報公開サイトをご確認ください。

Accel Studio

- マスタメンテナンステンプレートでデータベースの日時型（yyyy/MM/dd hh:mm:ss）の辞書項目が利用可能になりました。（「Excelファイルを利用」からの作成、及び、タイムゾーン・サマータイムは非対応）
- テスト機能がバーチャルテナントによる複数テナント環境での利用に対応しました。
2025 Springからアップデートする場合は非同期タスクキューの削除が必要です。
詳細は[セットアップガイド](#)をご確認ください。

▶ [Accel Studio リリースノートはこちら](#)

IM-BlomMaker

- カレンダー情報を表示可能な日付入力エレメント（コンテンツ種別：imds/Bulma）を追加しました。
- アクションアイテム「変数○を○に代入する」の変数の型違いを検出する管理ツール機能を追加しました。
- レイアウトモードのユーザーインターフェース改善や機能追加を実施しました。
- コンテンツの保存方法を変更・追加しました。基本情報（コンテンツ定義名）の変更、別コンテンツIDで保存などが可能になります。

▶ [IM-BlomMaker リリースノートはこちら](#)

その他のアップデート内容

IM-Workflow

- コンテンツ定義の「メッセージ」タブのメッセージテンプレート一覧にページング機能を追加しました。
- 以下のアップデート内容は、2025 Spring以前の環境からアップデートを適用する場合は設定変更が必要です。
詳細は[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)をご確認ください。
 - 案件の再申請時に参照者を再展開するように変更しました。
 - トランザクションデータ削除時に現在時刻から一定時間内のファイルを保護する機能を追加しました。
 - 処理対象者プラグイン起動時にブラウザのポップアップブロック制御を回避する設定を追加しました。

▶ [intra-mart Accel Platform リリースノートはこちら](#)

IM-BIS

- 画面アイテム「ボタン(直接差戻し)」のプロパティに「処理コメントの必須入力チェック」項目と「実行時に設定を許可」項目を追加しました。
- Office365連携設定の「種類」を非表示にできるようにしました。

▶ [IM-BIS リリースノートはこちら](#)

その他のアップデート内容

IM-Copilot

- ベクトルデータベースの登録データをリソース単位で削除できるようにしました。
ベクトル情報に対してコンテンツの参照元を識別するID (origin_source_id) を付与することで、リリース単位でのベクトルデータの削除が可能になります。詳細は[要件情報公開サイト](#)の内容をご確認ください。

メリット

不要または更新が必要なベクトルデータを個別に削除できるようになることで、ベクトルデータ生成時に発生する埋め込み処理にかかる**生成AIサービスの利用料金や処理時間などのコスト削減が可能**になります。

▶ [intra-mart Accel Platform リリースノートはこちら](#)

ViewCreator

- ViewCreator SQLビルダ アシスタントがAzure OpenAI Serviceに対応しました。
サポートモデルについては[IM-Copilot利用ガイド](#)をご確認ください。
- テーブル単位でのアクセス制限機能をSQLビルダ機能に追加しました。

▶ [intra-mart Accel Platform リリースノートはこちら](#)

その他のアップデート内容

IM-BPM

- IM-BPM管理者以外の管理権限ロールでもプロセス一覧に全プロセスが表示されるように改善しました。
プロセス一覧画面で表示されるプロセスは認可リソース「プロセスインスタンス」の認可有無で判定されます。
詳細は[要件情報公開サイト](#)の内容をご確認ください。
- プロセスインスタンスの削除やプロセスのアーカイブ機能のパフォーマンス改善のため、「ACT_HI_COMMENT」テーブルにインデックスを追加しました（新規の環境構築時のみ）。
2025 Springからアップデートする場合はインデックス付与が必要です。
詳細は[セットアップガイド](#)をご確認ください。

▶ [IM-BPM リリースノートはこちら](#)

その他のアップデート内容

intra-mart Accel Documents

- Linux環境で文書のサムネイルが生成されない不具合を修正しました。
近年のLinuxではサムネイル生成機能が依存するライブラリ「libpng12」が標準提供されていないため、Linux環境で文書を登録してもサムネイルが表示されませんでした。(パッチ公開済み)

▶ [intra-mart Accel Documents リリースノートはこちら](#)

intra-mart Accel Archiver

- LibreOffice 24.8.7でのコンテンツのPDF変換に対応しました。
- 開発者向けの各種APIを拡充し、利用可能なメソッドを複数追加しました。

▶ [intra-mart Accel Archiver リリースノートはこちら](#)

その他の製品・エクステンションシリーズ

- [ドキュメントライブラリ](#)の最新リリースノート、または、[要件情報公開サイト](#)をご確認ください。

2025 Autumnアップデート対象 OEM製品

以下の製品は2025 Autumnでアップデートが実施されます。

アップデート対象のOEM製品

- intra-mart Accel Archiver
- IM-PDFAutoConverter
- IM-PDFCoordinator
- IM-PDFDesigner / IM-PDFDesigner Fullpack
- IM-PDFDirectPrint
- IM-PDFTimeStamper
- intra-mart Accel Collaboration アンケート

アップデート内容が無いOEM製品

下記製品は2025 Autumnでアップデート内容はありません。

- intra-mart Accel Kaiden!
- intra-mart Accel GroupMail

システム要件のアップデート

サーバ要件

〔サポート対象追加〕

- Red Hat Enterprise Linux 10

〔サポート対象削除〕

今回のアップデートにおいてサポート対象から削除されたサーバ要件はありません。

クライアント要件

〔バージョン更新〕

- クライアントOS/クライアントブラウザ
各最新バージョンに追随（※）

※詳細はリリースノート(製品ドキュメントサイト)をご確認ください

https://document.intra-mart.jp/library/iap/public/iap_release_note/index.html

2025 Autumnで連携可能な生成AIサービス・利用条件

連携可能な生成AIサービス

- OpenAI (※1)
- Azure OpenAI Service (※1)
- Amazon Bedrock (※2)

- 各サービスは別途契約が必要です。
- 各サービスを複数利用(併用)できません。
サービスごとに利用可能な機能が異なります。
(次ページの機能対応表を参照)

利用条件

対象エディション

- 【カスタマーサクセスライセンス】
 - アドバンスエディション
 - プロフェッショナルエディション
- 【永続ライセンス】
 - アドバンストエディション(※3)
 - エンタープライズエディション(※3)
- 【ASEAN地域向けライセンス】
 - ローコードエディション

※1: intra-mart Accel Platform 2024 Spring以降のバージョンで環境を作成する必要があります。

※2: intra-mart Accel Platform 2024 Autumn以降のバージョンで環境を作成する必要があります。

※3: 2025 Spring以降でご利用いただけます。2024 Autumn以前の永続ライセンスのエディションではご利用いただけません。

生成AI連携機能（IM-Copilot）を利用する場合の注意事項

ベクトルデータベースについて

IM-CopilotでRAG機能を利用する場合、ベクトルデータベースの追加が必要となります。
サポート対象は下記の2製品です。

- Apache Solr 9.6 (※1)
- pgvector (※2)

(※1)2024 Spring以前でSolrをご利用の場合(IM-ContentsSearchご利用者)、バージョンアップが必要になります(8→9)。

(※2)すでにPostgreSQLをご利用の場合、エクステンションの追加が必要になります。

生成AIサービス 機能対応表

	Wikiアシスタント	SQL自動生成 (ViewCreator)	Accel Studio アシスタント／テスト機能	IM-LogicDesigner IM-Copilot関連タスク
OpenAI	○	○	○	○
Azure OpenAI Service	○	○ (2025 Autumnより)	○	○
Amazon Bedrock	○	○	○	○

その他の提供内容

「ミドルウェア対応ロードマップ（2024Spring-2026Autumn）」

intra-mart Accel Platformに対応するのミドルウェア製品について、今後三か年でどのような対応をしていくか整理した「ミドルウェア対応ロードマップ（2024Spring-2026Autumn）」を公開しております。

資料は弊社コミュニティサイトのicoNEO上からご確認いただけます。

▶ [icoNEO - Partner's Room/製品・サービス資料](#)

要件情報公開サイト：2025 Autumn対応要件へのリンク 1

製品・機能	対応要件一覧URL
intra-mart Accel Platform	https://issue.intra-mart.jp/projects/iap/issues?query_id=1150
Accel Studio	https://issue.intra-mart.jp/projects/accelstudio/issues?query_id=1134
IM-BloomMaker	https://issue.intra-mart.jp/projects/bloommaker/issues?query_id=1137
IM-BIS	https://issue.intra-mart.jp/projects/bis/issues?query_id=1136
IM-FormaDesigner	https://issue.intra-mart.jp/projects/forma/issues?query_id=1139
IM-Spreadsheet	https://issue.intra-mart.jp/projects/spreadsheet/issues?query_id=1145
IM-BPM	https://issue.intra-mart.jp/projects/bpm/issues?query_id=1138
Accel Platform Mobile	https://issue.intra-mart.jp/projects/smacolow/issues?query_id=1151
IM-PDFAutoConverter	https://issue.intra-mart.jp/projects/pdfconv/issues?query_id=1140
IM-PDFCoordinator	https://issue.intra-mart.jp/projects/pdfcrd/issues?query_id=1141
IM-PDFDesigner	https://issue.intra-mart.jp/projects/pdfdes/issues?query_id=1142

要件情報公開サイト：2025 Autumn対応要件へのリンク 2

製品・機能	対応要件一覧URL
IM-PDFDirectPrint	https://issue.intra-mart.jp/projects/pdfdp/issues?query_id=1143
IM-PDFTimeStamper	https://issue.intra-mart.jp/projects/pdfts/issues?query_id=1144
IM-Sign	https://issue.intra-mart.jp/projects/sign/issues?query_id=1152
e Builder	https://issue.intra-mart.jp/projects/ebuilder/issues?query_id=1135
intra-mart Accel Collaboration	https://issue.intra-mart.jp/projects/iac/issues?query_id=1147
intra-mart Accel Archiver	https://issue.intra-mart.jp/projects/iaa/issues?query_id=1146
intra-mart Accel Documents	https://issue.intra-mart.jp/projects/iad/issues?query_id=1148

要件情報公開サイトについて

本資料は要件情報公開サイトに記載されている内容のうち、主要なアップデートについて記載しています。

本資料に記載のないアップデート情報、各アップデート内容の詳細を確認したい場合は、要件情報公開サイトを併せてご利用ください。



intra-mart要件情報公開サイト
<https://issue.intra-mart.jp/>

The image displays two screenshots of the intra-mart 要件情報公開サイト (Requirement Information Disclosure Site). The left screenshot shows the main page with a search bar at the top right containing the ticket number '37020'. A red arrow points from this search bar to a red box labeled 'チケット番号による検索' (Search by Ticket Number). The right screenshot shows a list of projects with a green box highlighting the 'カテゴリ' (Category) column, with a green arrow pointing to a green box labeled 'カテゴリによる検索' (Search by Category). Below this, a green box states '機能・製品ごとに検索できます' (Can search by function and product). At the bottom right, a list of URLs is provided for specific project searches.

検索: 37020

プロジェクトへ移動...

ホーム

intra-mart の各製品に関する対応要件および不具合を参照することができます。

1. 下記のプロジェクト一覧、もしくは右上のプロジェクトへ移動... より、参照したいプロジェクト(製品)を選択してください。
2. 選択したプロジェクトごとに記載されているバージョンもしくはパッチを選択して、要件(チケット)の一覧を確認可能です。
 - チケット画面の右側にある **カスタムエリ** の一覧からも、バージョンおよびパッチによる絞り込みが可能です。
3. またチケット画面では、上部にある **フィルタ** に任意の検索条件を指定することで、任意の条件でチケットの絞り込み検索が行えます。

脆弱性対策の公開要件について

脆弱性の対策を実施した要件を本サイトで公開しています。公開は、2018 Spring(Skylark)以降の要件が対象です。

脆弱性の確認方法

要件チケットに「脆弱性」の項目があり、「はい」が指定されている要件が該当します。「脆弱性」の項目は、要件を検索する条件に指定することができます。確認を行う場合は、各プロジェクトで条件を指定した上で検索を行ってください。

公開内容

- ・ カテゴリ
ソフトウェアにおけるセキュリティ上の弱点（脆弱性）の種別を識別するための共通の基準（CWE）で体

Accel Platform Mobile

Accel Studio

intra-mart Web Platform / Applicatio...

eBuilder

IM-Annotation

IM-BIS

IM-BloomMaker for Accel Platform

IM-BPM

IM-ContentsSearch 7.2

IM-ERPリアルコネクト

IM-ExApply

IM-FormaDesigner

IM-Mail

IM-MobileFramework

IM-PDFAutoConverter

IM-PDFCoordinator

IM-PDFDesigner

全プロジェクト

機能・製品ごとに検索できます

チケット番号による検索

カテゴリによる検索

- <https://issue.intra-mart.jp/projects/iap>
- <https://issue.intra-mart.jp/projects/iac>
- <https://issue.intra-mart.jp/projects/bpm>

開発者向けポータルサイト「Developer Portal」

開発者にわかりやすく各種情報・ドキュメントを案内するサイトを公開しております。
intra-martの各種開発情報の収集にご利用ください。

サイト概要

▶ <https://dev-portal.intra-mart.jp/>

Developer Portal



製品ドキュメント、YouTubeチャンネルコンテンツなど、intra-mart関連情報の集約サイトです。

ローコード開発情報専用ページ「ローコードポータル」も本サイトからご覧いただけます。

ローコードポータル



intra-martのローコードツールを使用した開発に関する、専用ポータルサイトです。

開発フェーズごとのローコード開発ツール利用方法、各製品にフォーカスした活用事例記事などを公開しています。